

B-127 和服の肩幅・後幅の寸法差の縫製上における縫い代の安定
東京家政大家政 ○井上好 神田和子 藤本やす

目的

平面構成における縫い代の安定は和服の仕立てに大きく影響する。和服本来の考之のもとに(縫い代を切り落とさなく)縫製処理を行う場合、従来の肩幅・後幅の寸法差では個人に適合した寸法をとることが不可能な場合がある。今回は肩幅・後幅の寸法差の縫製上における縫い代の安定について実験的に検討を行う。

方法

浴衣地を用いて脇縫い代6cm, 袖付23cm, 身八ッ口15cm, 肩幅と後幅の寸法差を2~5cmとした。寸法差を8種類とし、脇縫い代のきせを0.2cm, 肩山での袖付け縫い代を0.5cmで縫製処理を行い、前縫い代と前身頃、後縫い代と後身頃とのなじみ具合を検討した。また前後縫い代を作図によりそれぞれの伸ばし率を算出し、実際縫製との関係を照合し考察を行った。

結果

身頃と脇縫い代なじむ寸法は、肩幅と後幅との寸法差が3cm以内の時、前縫い代は肩山から身八ッ口止まりまで、寸法差が3.5~4cmまでは身八ッ口止まりより10cm下までの間で無理になじんだ。後縫い代は寸法差が3, 3.5, 3.7~4cm、いずれの場合も身八ッ口止まりより15cm下までの間で身頃に縫い代がなじんだ。寸法差が4.5cmの場合は前後とも身八ッ口止まりより15cmまでの間であった。前縫い代が身八ッ口止まりまででなじむ場合の最大伸ばし率は1.8%である。